

## 今月の PICK UP

『世界の神話大図鑑』 フィリップ・ウィルキンソン/ほか著 三省堂 164セ

世界各地の多くの文化には、それぞれの国の始まりを記した固有の神話があります。本書では、よく知られているギリシアやローマから、アフリカやポリネシアにいたるまで世界中の神話を紹介しています。

ところ変われば神話も変わり、守り神となるものもさまざまです。が、いずれの地においても太陽や月などの自然はあがめられ、恐れられ、また司る神々はその巨大な力を存分すぎるくらいに行使し、争いを繰り返していたことが本書からわかります。

人類が活字を持つ以前の神話は、失われているものも多いそうです。つまり現在残っている神話は運良く伝承されてきた貴重なもの。そんなことも感じながら神話の世界にひたってみてください。



『にほんの行事と四季のしつらい』

広田 千悦子/著 世界文化社 386.1ヒ

日本の行事や四季折々の節気を取り入れた生活様式は、忙しい現代にはなかなかそぐわず、だんだんと薄れつつあります。

そんな中で本書を読めば、新たに知る言葉、改めて知る言葉が必ずあって、新鮮に感じるのではないのでしょうか。歳時記研究家の著者が、日本の四季の過ごし方を教えてくれます。

できることをマネするだけでも、おうち時間が充実して、自分の暮らしが自然とていねいになるのを実感できると思います。



司書の  
おすすめ

『世にも美しき数学者たちの日常』 二宮 敦人/著 幻冬舎 410.2ニ

“数学者だけに見える世界に触れたい”と、11人の数学に携わる人への取材を始めた著者。「数学が好きで好きでたまらない。」「数学は美しい。」と語るほど、どの人も数学への熱い思いが溢れています。数学との出会いや日常など、一人一人のエピソードがとても面白いので数学が苦手な方も楽しめる一冊です。



『街角図鑑』 三土 たつお/編著 実業之日本社 501.8ミ

本書は、普段何気なく見ているマンホールや信号機、郵便ポスト、三角コーン、車止めなど、街で見かける物たちを図鑑のように並べて紹介、解説しています。意外と種類が多いことに驚いたり、添えられた解説にクスツしたり。読んでから出かけると見慣れた街でも新鮮に感じ、新たな発見があること間違いなしです。続巻『街角図鑑 街と境界編』もあります。



『ものがたりの家』 吉田 誠治/著 パインターナショナル 726.5ヨ

幼い頃に読んだ冒険小説の表紙の裏には、宝の地図や秘密基地の見取り図が描いてありました。まだ見ぬ物語の世界への期待を膨らませながら、わくわくして眺めたものです。

本書には、そんな子ども心を思い出させる空想の家33点が収録されています。それぞれの家には、どんな物語があるのでしょうか。間取りや内装まで細かく設定された家々から、想像が広がります。

